

報道関係 各位

2018年4月4日  
公益財団法人日本デザイン振興会

## 「2018年度グッドデザイン賞」の応募受付を4月4日(水)より開始

### 審査委員長に柴田文江氏、副委員長に齋藤精一氏が就任



公益財団法人日本デザイン振興会(会長:川上元美、所在地:東京都港区)は、2018年4月4日(水)より、主催事業である2018年度グッドデザイン賞の応募受付およびグッドデザイン・ロングライフデザイン賞への推薦受付を開始します。応募締め切りは、5月23日(水)です。

グッドデザイン賞は、1957年に創設された日本を代表する世界的デザイン賞です。産業の発展とくらしの質を高めるデザインを、さまざまな分野から見いだし、広く伝えることを目的としています。

### 新たな審査委員長・審査副委員長が就任

新たに審査委員長に柴田文江氏(プロダクトデザイナー・デザインスタジオエス代表)、審査副委員長に齋藤精一氏(クリエイティブ/テクニカルディレクター・ライゾマティクス代表取締役社長)が就任します。製品分野を中心にデザインの実績が豊富な柴田氏と、既存の領域を横断するクリエイションを担う齋藤氏を中心とした審査体制により、多様化が進むデザインの可能性をさらに豊かに読み解くことが期待されます。



柴田文江氏

齋藤精一氏

### 新賞「グッドフォーカス賞」を制定

社会における重要なテーマである「ビジネス」、「地域社会」、「技術発展・伝承」に焦点を定めた新賞「グッドフォーカス賞」を本年度より制定。それぞれのテーマに対する、先駆的なデザインを顕彰します。なお、「グッドデザイン金賞」、「グッドデザイン大賞」は従来から継承します。より全方位的に卓越したデザインとして決定される「グッドデザイン金賞」と、その中で2018年のシンボルとなる「グッドデザイン大賞」の候補を新たに「ファイナリスト」と位置付け、これからのデザインのモデルとなる高度な力を訴求します。

### おもなスケジュール

- 4月4日(水)～5月23日(水) : 応募受付期間
- 5月31日(木)～9月4日(火) : 一次審査、二次審査期間
- 10月3日(水) : 受賞発表[グッドデザイン賞、グッドデザイン・ベスト100]
- 10月10日(水) : グッドデザイン・ベスト100デザイナーズプレゼンテーション
- 10月31日(水) : 祝賀会、大賞選出会、発表[大賞、金賞、グッドフォーカス賞]
- 10月31日(水)～11月4日(日): 受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2018」



参考:2017年度受賞展風景

### 応募について

応募対象: 2019年3月31日までに、ユーザーが購入または利用でき、2018年10月3日の受賞発表日に公表できる商品・建築・アプリケーション・ソフトウェア・プロジェクト・サービス・システムなど、ものごと全般。

応募資格: 応募対象の事業主体者、およびデザイン事業者。なお、岩手・宮城・福島の各県に事業本拠地を置く応募者については応募費用を免除。

応募方法: グッドデザイン賞ウェブサイト([www.g-mark.org](http://www.g-mark.org)) 専用ページで必要事項を登録。5月23日(水)締切。

本件への報道関係者のお問い合わせ: 株式会社オズマピーアール 担当: 月田、新井、鈴木  
Tel: 03-4531-0214 E-mail: [jdp@ozma.co.jp](mailto:jdp@ozma.co.jp)

一般からのお問い合わせ: 公益財団法人日本デザイン振興会 グッドデザイン賞事務局  
Tel: 03-6743-3777 E-mail: [info@g-mark.org](mailto:info@g-mark.org)

## 賞の種類と受賞プロモーション

グッドデザイン賞は、「グッドデザイン賞」および、特別賞の「グッドデザイン大賞」、「グッドデザイン金賞」、「グッドフォーカス賞」で構成されます。グッドデザイン賞受賞対象のうち、特筆して優れた100件は「グッドデザイン・ベスト100」として選出されます。その後、グッドデザイン・ベスト100より「グッドデザイン金賞」、「グッドフォーカス賞」、「グッドデザイン大賞候補」が選出され、「グッドデザイン大賞」はグッドデザイン大賞候補の中から決定されます。



参考：2017年度グッドデザイン大賞  
カジュアル管楽器 [Venova]

グッドデザイン賞：優れたデザイン

グッドデザイン大賞：2018年を象徴するシンボルデザイン

グッドデザイン金賞：デザインとしてのバランスが卓越し、将来へのモデルとなりうるデザイン

グッドフォーカス賞：以下の社会的テーマに対する高い提案性を備えるデザイン

- －新ビジネスデザイン／新しいビジネスモデルや産業の創出、イノベーション促進に寄与するデザイン
- －技術・伝承デザイン／高度な技術・技能から生まれた製品のデザイン
- －地域社会デザイン／地域社会の発展・活性に貢献するデザイン
- －復興デザイン／震災など大規模自然災害の復興に寄与するデザイン

受賞デザインは10月31日(水)から、東京ミッドタウン(六本木)で開催する受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2018」において紹介するほか、国内外で開催する展示会や見本市、販売イベントなどで随時紹介を行います。

## グッドデザイン賞からの提言「フォーカス・イシュー」を実施

グッドデザイン賞では、日本が世界に先がけて向き合う顕著な社会課題や、これから人々のより大きな関心事となって社会を動かすことが予想されるテーマを「フォーカス・イシュー」として定め、いかにデザイン力でそれらに働きかけることができるか、デザインとしてどのような貢献ができるのか、審査のプロセスや受賞デザインを通じて読み解き、デザインから社会に向けた提言として発信していきます。

## 開催概要

- ・主催：公益財団法人日本デザイン振興会
- ・後援：経済産業省／中小企業庁／東京都／日本商工会議所／日本貿易振興機構(JETRO)／国際機関日本アセアンセンター／日本経済新聞社(一部に後援予定を含む)

## 【グッドデザイン・ロングライフデザイン賞への推薦受付も、4月4日(水)より開始】

長年にわたり人々から支持される、「私たちの生活を築き、これからもその役割を担い続けて欲しいデザイン」を選ぶ「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」への推薦受付を、4月4日(水)から開始します。

- ・推薦対象：広く使用者や生活者から支持を得ている商品やサービスで、審査が行われる時点で10年以上継続的に提供され、またそれ以降も継続して提供されると想定できるもの
- ・推薦資格：商品・サービスのユーザー、デザイナー、提供企業など
- ・推薦方法：グッドデザイン賞ウェブサイトの推薦フォームから登録
- ・推薦受付期間：4月4日(水)から5月23日(水)まで
- ・受賞発表：10月3日(水)



参考：2017年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞  
レンズ付きフィルム [写ルンです]

## 参考／グッドデザイン賞について



GOOD  
DESIGN

1957年に開始された日本を代表するデザイン賞。商品をはじめ建築、各種のアプリケーションやソフトウェア、デザインを活用したプロジェクトや取り組みなど、生活環境を構成する有形無形のさまざまな対象に贈られる。「社会を前進させるデザイン」という考え方のもと、デザインの社会性を重視した審査を行うとともに、受賞デザインに関する展示や出版、各種のイベントなど多彩なプロモーションを展開することで、受賞者の価値の向上に加え、社会へのデザインの普及を促し、デザインの可能性を高めることに一貫して貢献している。そのためグッドデザイン賞は85%もの認知率\*を誇り、よいデザインの象徴としての「Gマーク」も広く親しまれている。

2017年度には、1998年の事業民営化以降最多となる4,495件の応募と、1,403件の受賞を記録。これまでの累計受賞数は46,000件以上となる。

\*日本デザイン振興会の2017年度インターネット調査による。

本リリースに記載のスケジュール、名称などは今後変更される場合があります。

参考資料:

## 2018年度グッドデザイン賞 審査委員長・審査副委員長のご紹介

### 審査委員長: 柴田文江



プロダクトデザイナー  
有限会社デザインスタジオエス 代表、武蔵野美術大学 教授

武蔵野美術大学卒業後、株式会社東芝を経て、有限会社デザインスタジオエスを設立。エレクトロニクス商品から日用雑貨、医療機器、ホテルのトータルディレクションまで、インダストリアルデザインを軸に幅広い領域で活動をしている。グッドデザイン金賞、毎日デザイン賞など多数受賞。

### 審査副委員長: 齋藤精一



クリエイティブ／テクニカルディレクター  
株式会社ライゾマティクス 代表取締役社長

コロンビア大学建築学科で建築デザインを学び、2000年からニューヨークで活動を開始。その後、フリーランスのクリエイターとして活躍後、2006年にライゾマティクスを設立。建築で培ったロジカルな思考を基に、アート・コマーシャルの領域で立体・インタラクティブの作品を多数作り続けている。国内外にて受賞多数。

## 正副審査委員長からのメッセージ 「デザインだからできること」

2018年のグッドデザイン賞を開始します。

デザインは私たちの暮らしを支え、これから先の社会における新たな生活像を導きます。いつどのような時代にあっても、私たち一人ひとりが心豊かに生きられるために、有形・無形を問わずデザインが必要です。

いま、デザインに取り組もうとする人が増えています。これまでに存在していたものごとをより良くしたいと考えてデザインをする人、デザインを通じて世の中の課題に働きかけ、解決を目指したいと考える人、まったく新しいデザインの可能性を拓こうとする人など、さまざまな立場から、デザインに希望の種を見出し、「デザインだからできること」に挑む人たちが増えているのです。

そのようにして生み出されるデザインには、私たち“人“に対する想いや理想があります。そして、デザインであればこそもたらされる多様な豊かさのかたちがあります。

グッドデザイン賞は、そのように人が人を想う中から生み出されるものごとが、どれほど志高く、美しいデザインへと昇華されているかに着目します。日々の暮らしの充実をもたらすデザイン、次のシーンを描き出す確かな力を備えたデザイン、私たちに新しいストーリーを運んでくれるデザインを見出し、グッドデザイン賞のフレームを通じてその価値を伝えることに努めたいと思います。